



174

高校生向け 年組

4月1日時点

県内待機児童ゼロに

2年ぶり、「潜在」も減少

県は2日までに、県内の保育所や認定こども園などに入れない待機児童数が今年4月1日時点で、2年ぶりにゼロになったと発表した。前年同期は上三川町で14人いたが、4月に小規模保育施設が1カ所開設されたことで解消されたという。特定の保育施設を希望するなどし、待機児童数に含まない「潜在的待機児童」は前年同期比で21人減の596人だった。

県は2日までに、県内の保育所や認定こども園などに入れない待機児童数が今年4月1日時点で、2年ぶりにゼロになったと発表した。前年同期は上三川町で14人いたが、4月に小規模保育施設が1カ所開設されたことで解消されたという。特定の保育施設を希望するなどし、待機児童数に含まない「潜在的待機児童」は前年同期比で21人減の596人だった。

県は2日までに、県内の保育所や認定こども園などに入れない待機児童数が今年4月1日時点で、2年ぶりにゼロになったと発表した。前年同期は上三川町で14人いたが、4月に小規模保育施設が1カ所開設されたことで解消されたという。特定の保育施設を希望するなどし、待機児童数に含まない「潜在的待機児童」は前年同期比で21人減の596人だった。

県は2日までに、県内の保育所や認定こども園などに入れない待機児童数が今年4月1日時点で、2年ぶりにゼロになったと発表した。前年同期は上三川町で14人いたが、4月に小規模保育施設が1カ所開設されたことで解消されたという。特定の保育施設を希望するなどし、待機児童数に含まない「潜在的待機児童」は前年同期比で21人減の596人だった。

県は2日までに、県内の保育所や認定こども園などに入れない待機児童数が今年4月1日時点で、2年ぶりにゼロになったと発表した。前年同期は上三川町で14人いたが、4月に小規模保育施設が1カ所開設されたことで解消されたという。特定の保育施設を希望するなどし、待機児童数に含まない「潜在的待機児童」は前年同期比で21人減の596人だった。

県は2日までに、県内の保育所や認定こども園などに入れない待機児童数が今年4月1日時点で、2年ぶりにゼロになったと発表した。前年同期は上三川町で14人いたが、4月に小規模保育施設が1カ所開設されたことで解消されたという。特定の保育施設を希望するなどし、待機児童数に含まない「潜在的待機児童」は前年同期比で21人減の596人だった。

宇都宮市	249
栃木市	55
佐野市	29
鹿沼市	30
日光市	10
小山市	131
真岡市	18
大田原市	13
那須塩原市	37
さくら市	4
下野市	1
上三川町	12
野木町	4
高根沢町	2
那須町	1
計	596

※4月1日現在。表にない10市町はゼロ

県子ども政策課によると、県全体の保育施設数は2カ所増の607施設、受入人数は49人で最多。小山市131人、栃木市55人、那須塩原市37人、上三川町12人、野木町4人、高根沢町2人、那須町1人、さくら市4人、下野市1人、日光市10人、鹿沼市30人、佐野市29人、栃木市55人、宇都宮市249人、計596人だった。

県子ども政策課によると、県全体の保育施設数は2カ所増の607施設、受入人数は49人で最多。小山市131人、栃木市55人、那須塩原市37人、上三川町12人、野木町4人、高根沢町2人、那須町1人、さくら市4人、下野市1人、日光市10人、鹿沼市30人、佐野市29人、栃木市55人、宇都宮市249人、計596人だった。

県子ども政策課によると、県全体の保育施設数は2カ所増の607施設、受入人数は49人で最多。小山市131人、栃木市55人、那須塩原市37人、上三川町12人、野木町4人、高根沢町2人、那須町1人、さくら市4人、下野市1人、日光市10人、鹿沼市30人、佐野市29人、栃木市55人、宇都宮市249人、計596人だった。

県子ども政策課によると、県全体の保育施設数は2カ所増の607施設、受入人数は49人で最多。小山市131人、栃木市55人、那須塩原市37人、上三川町12人、野木町4人、高根沢町2人、那須町1人、さくら市4人、下野市1人、日光市10人、鹿沼市30人、佐野市29人、栃木市55人、宇都宮市249人、計596人だった。

県子ども政策課によると、県全体の保育施設数は2カ所増の607施設、受入人数は49人で最多。小山市131人、栃木市55人、那須塩原市37人、上三川町12人、野木町4人、高根沢町2人、那須町1人、さくら市4人、下野市1人、日光市10人、鹿沼市30人、佐野市29人、栃木市55人、宇都宮市249人、計596人だった。

県子ども政策課によると、県全体の保育施設数は2カ所増の607施設、受入人数は49人で最多。小山市131人、栃木市55人、那須塩原市37人、上三川町12人、野木町4人、高根沢町2人、那須町1人、さくら市4人、下野市1人、日光市10人、鹿沼市30人、佐野市29人、栃木市55人、宇都宮市249人、計596人だった。

県子ども政策課によると、県全体の保育施設数は2カ所増の607施設、受入人数は49人で最多。小山市131人、栃木市55人、那須塩原市37人、上三川町12人、野木町4人、高根沢町2人、那須町1人、さくら市4人、下野市1人、日光市10人、鹿沼市30人、佐野市29人、栃木市55人、宇都宮市249人、計596人だった。

設問

【1】記事に照らして、栃木県内の待機児童について、正誤を○×で答えてください。

- ①2022年の同期も県内待機児童はゼロだった
- ②2023年度も新型コロナウイルス感染拡大に伴う「預け控え」の報告が相次いでいる
- ③県子ども政策課によると、保育施設は前年度より増えている
- ④県子ども政策課によると、保育所などへの申し込みは3年連続で減少している

【2】記事に照らして、潜在的待機児童に当てはまるものは○、そうでないものには×で解答してください。

- ①保護者が弟や妹のための育児休業を取得中のため、入園要件を満たせずに待機している児童
- ②保育園に入園できなかったことを理由に、母親が育児休業を延長して待機している児童
- ③第1希望がかなわず、第2希望の幼稚園に入園している児童
- ④認可保育園に入園できなかったため、無認可保育園に預けられている児童

【3】記事に照らして、2023年4月1日現在、県内市町別潜在的待機児童がゼロの10市町のうち、市を二つ、町を二つ挙げてください。

うち、市を二つ、町を二つ挙げてください。

【4】記事にある2024年までの「とちぎ子ども・子育て支援プラン」概要版の第2部で取り上げている本県の現状の中から一つ選び、第3部にある計画の基本方針のⅠ～Ⅷの施策を選んで、あなたの考える取り組みを100字程度で自由に論じてください。

※参考 とちぎ子ども・子育て支援プラン2020—2024概要版

